



第 51 号

同窓会の発展を願って

会長 森 本 晴 生



さる六月七日に開かれた総会で、湊くに先生の後任の会長に

選出され、身の引き締まる想いでいっばいです。皆様のご協力をいただき、同窓会を発展させたいと願っております。

湊先生に初めてお目にかかったのは東京文化小学校の二年生の頃で、先生は短大で体育実技を教えていらっしゃいました。それ以来五十年にわたり、大きな声の先生からご指導いただきました。

同窓会は同じ学校を卒業した広い年代の人たちの集まりです。しかしこの同窓会は少し様子が違い、小学校から短大まで、そして五十年以上前の女子経済専

んだんと増え、今では住所が確認できて同窓会員が一万七千人近くになっていきます。

私は「和」だけでなく「輪」の大切さも呼びかけていきます。会員が増えた今、多くの人たちが一堂に会することは難しくなっています。小さな会員の輪を作り、そこでの和を大切に、会員の輪を別の会員の輪とつなげて大きな輪にしていくことによつて、全体の和が作られます。

二十五歳を一世代と考えたと、母校が創立して八十年経つということは、同窓会としては三世代の集合体になります。現に、祖母も、母も同窓生であるという若い同窓生も年々増えていきます。各世代での活動と、世代を超えての活動とが必要になっていきます。

そのために、これまでの活動の内容を見直し、その活動の目的を達成できるようにして継続します。一方で、若い世代の会員が参加しなくなる活動を加え、大きな輪に広げていきます。

皆様のご理解とご協力を得て、さらに活動を広げる同窓会にしていきたく願っております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

湊会長は副会長の十五年間、会長として二十一年間を通じて、「和を大切に」と同窓会員にいつも呼びかけられていました。それは、年代と卒業校が違う大勢の人たちの協力を大事にされていたからです。同窓会員がだ

湊くに 前同窓会長逝去



本同窓会の湊くに会長は、さる五月三日、ご病気のため滞在先の群馬県高崎市で逝去されました。享年八十八歳。

五月六日に高崎市で行われた葬儀告別式には、同窓会から黒澤教子副会長、森本晴生副会長はじめ、同窓会関係者が十五人程参列し、湊先生とお別れをしました。五月十五日に東京で行われた本葬には、本会から数十人

が参列しました。湊くに先生は附属高等女学校で新渡戸稲造校長から直接に指導を受けられた同窓生の一人でした。卒業後、母校で教鞭をとられました。

先生は昭和四十八年から副会長、昭和六十三年から会長として、また学園では昭和六十二年から評議員を、平成三年からは理事を平成十三年までお勤めになり、同窓会と学園の発展に寄与されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

東京文化から新渡戸文化へ

校名も変わります

学園は、平成二十年四月に法人名称を「学校法人新渡戸文化学園」に変更しました。これは、本学園が初代校長新渡戸稲造先生の「心の教育」を実践していることを社会にアピールするものです。

校名を法人名称に合わせ、「東京文化〇〇」から「新渡戸文化〇〇」に変更します。また、平成二十二年に小学校を、翌年に幼稚園を杉並校地から中野本校地に移転しました。各校の一貫性をさらに強めて、社会のニーズに即した教育を進め、新渡戸精神を森本厚吉先生が具体化された建学の精神の実現を目指します。

そして、幼稚園から短期大学までの総合学園として、さらに発展することを目的として、平成二十二年四月に各学

同窓会総会

六月七日(日) 母校にて

いづみ

今年の総会で、会則改正と役員改選がありました。任期満了となる湊くに会長は、以前から会長職を退きたいという意向が出されていきました。幹事会では、湊会長を名誉会長に推し、森本晴生副会長を会長にという原案が、満場一致で承認されました。湊会長は、残念なことに五月三日に逝去され、森本晴生会長の選任が総会で決定されました。湊会長には、長い間、同窓会を導き、私達に元気を与えて下さいました。心からご冥福をお祈りいたします。

短大が「卒業校」になりますので、昭和三十一年から今年三月に卒業した方が集まりました。短大部では、中原学長をお招きして、思い出話や今後の話をしました。「東京文化高校の卒業生の一人でも多くが、短大に進学してもらい、学生を増やしていきたい。」と学長は話していました。私学で併設校なのに、内部進学が少なすぎると私も思います。学園の反映にも、自信をもって高校生に内部進学を勧めていただきたいと思えます。

最後になりましたが、カフェテリアで作っていただいたお弁当、最高でした。さすが卒業生ですね。助手の方々も細かく気を配ってくれ、助かりました。ありがとうございます。

短大50 富士ひろみ
(旧・武藤)

四十年ぶりの同窓会総会

去る六月七日(日曜日)東京文化学園同窓会の総会に卒業後

初めて参加いたしました。七日はちょうど所用で上京する日、松山空港発第一便のチケットがとれ、総会開始時刻の十一時頃学園に着くことができました。卒業後四十数年が経っています。学園内に入り当時のままの建物や樹木のヒマラヤスギが目に入り、学生時代のことが昨日のことのように思い出され、感慨深くしばらくその場にたたずんでいました。

その後大先輩の相賀先生他先輩の方々、同級生などとお会いし、出席できましたことをうれしく思います。総会は学園長の森本先生の御挨拶、新しく幹事になられた方々の紹介、議事録の説明、進行と滞りなく終了。

総会が終わり一つ残念に思うことは、今や社会問題になっている少子化が学園の運営に少なからず影響していることを実感したことです。一朝一夕に解決できる事柄ではないだけに心が痛む思いです。

総会の後、江戸時代から続く伝統芸・太神楽の鏡味仙志郎さんによる余興、同窓生で現在もテレビや舞台でご活躍中の演出家、石井ふく子先生のお話があり楽しい時間を過ごしました。

中でも石井先生のお話は印象深く、現在の社会や家族の有り様など、年月の重みを感じさせる内容と、先生の話し方に心を打たれました。

石井先生ご自身もずっとお話をなさりたかったご様子、私達もずっとお話を聞きたかったのですが、時間の都合上できなくて残念に思いました。また先生のお話を聞く機会を楽しみにしています。

医技41 高田 ユリ子
(旧・田窪)

久しぶりの総会で

久しぶりの総会も、午前のイベントに間に合わず、昼食会より参加させていただきました。

あちらこちら久しぶりに顔を合わせた喜びを交し合っている時の会話は、やはり、心に深く刻まれた「3日精神の学び」が家庭生活に実って、素晴らしい精神の教えだったとつくづく感じているとの内容でした。

昨年四月に学園名が新渡戸文化学園となり、来年四月をもって学校名も新渡戸文化になるのならば尚更のこと、新渡戸精神本領発揮時と!! 今、日本で問題

となっている男女の逆転化や、何と言っても家庭の重要性や親子の絆等々、どれも女性の重要な役割が失われて来ているのが原因ではないだろうか?と皆さんと話している中、こんな時こそ3日精神の出番!!と、先輩

愛の学校であるべきその大事な家庭を守るのは女性であり、活く頭のヘッド、動しむ双手のハンド、人を愛する心のハートを大いに使って素晴らしい家庭を築ける女性が一人でも多く育ち卒業して、今こそ、こんな時代こそ、新渡戸精神は「古き良き」でなく「今も良き」本当の愛の強さを持つ女性になるための学びのある学園なので、きっと、女性教育一番の学校になるはず!!

新渡戸精神を持ってこそ、崩壊した家庭を愛の学校にし、逆転化した男女を夫を立てられる女性に育てて、平和な社会に再建できると、大いに盛り上がりました。

年を重ねてこそ、どんな教育が素晴らしいか、同窓生の方々と改めて学校への感謝の想いを響かせた、有意義な昼食会の一時でした。

高校44 伊尾喜美佐子

同窓会会則の改正

幹事会を最終の審議機関に

去る六月七日の総会で、東京文化学園同窓会会則が改正されました。前号では改正の概要について掲載しましたが、今回は改正後の会則について説明いたします。

事会で原案を決め、幹事会で理事会案を承認し、六月七日の総会で改正を決定しました。

総会を報告機関に

会則は昭和二十六年に制定され、平成九年までに五回の改正を経ていきます。これらの改正は学園が設置する学校の変更や住居表示変更などの事務的な改正のほか、役員を選任方法、役割、定員などの運営方法についての改正です。

現在、同窓会員が大幅に増加し、住所が判っている会員が一万五千人を超えたために、総会を同窓会の意思決定機関とすることには、招集費用、出席者数などで適切ではなくなりました。また、役員役割なども現在社会の動きに合わせて必要になってきました。

今回の改正は、昨年春から検討を重ねたもので、昨年十月発行の「泉」でその概要を掲載しました。今年になって、四月の理

会の名称は学校名に応じて

昨年四月に学園が新渡戸文化学園に名称を変更しました。来年度四月から、各学校の名称に「新渡戸文化」を冠して、新渡戸文化短期大学などに変更することになりました。これに応じて、本会の名称を変更するものとするのを会則の附則に加え

ました。

「業務」も監査対象に

役員「会計監査」は、これまで理事会にいつも出席するなど、業務についても関与していましたが、会則では会計監査だけが業務でした。「監事」など監査する役の者は業務監査も行うという社会の流れに合わせて、その役割に業務監査も加えられました。これに伴って、役職名の「会計監査」を「監査」に改めました。



総会で講演する石井ふく子さん

校の名称が変わり、平成二十三年三月には新渡戸文化短期大学などから卒業生が巣立っていきます。それを踏まえて会の名称について、理事会と幹事会で議論されることが見込まれます。

同窓会役員

平成二十一・二十二年度

さる六月七日の総会で、平成二十一年度・二十二年度の役員が次のとおり選任されました。

会長(理事) 森本 晴生
副会長(理事) 黒澤 教子

理事 小松 洋子

専門幹事長 中川 悦
専門副幹事長 藤原 芳江
短大幹事長 長井 康子
短大副幹事長 五十嵐 佳寿子

富士 ひろみ
安部 正
医技幹事長 相賀 静子
医技副幹事長 成沢 敏枝
松井 綾子
松本 荻乃

高女・高校幹事長 榎本 良子
高女・高校副幹事長 伊藤 美和子

監査 高橋 芳子
特別校内理事 石森 眞子
校内理事 原 たつえ
松島 しのぶ
小原 早織
青木 純子
高橋 芳子
以上

誌面の都合で会則の全文を掲載していません。新しい会則の全体をご覧になりたい方は、同窓会事務局に新会則をご請求ください。

故 湊会長を偲ぶ

「はい！肩を挙げて降ろして、イチ、ニ、サン、シ」：

「泉」の放送作業の時、あるいは旅行のバスの中、湊会長の良く透る声が響き渡る。あの号令をもう一度聞きたい。

経専生時代、私は高女の方とバレーのチームを組んで中野区の大会に出場したりした。当初のヘタクソチームが、「湊要吉先生」の熱心な指導によって、

曲がりなりにも公の試合に出られるようになった。後日この要吉先生の奥様が同窓会の「湊くさん」と知った。

戦後の学制改革により、経専学園は東京文化学園に徐々に移行し、幼稚園から短大までの学園に発展した。この期に当時の森本静子校長は同窓会の組織化に尽力され、経専および附属高女の卒業生達を次々招き、相談しておられた。その中に湊くさんがおられた。

その後、湊くに先生が体育の教師として学園に迎えられ、半世紀以上にわたって同窓会に尽くされた。麹町学園に移られてからは、学生、生徒を毎年のように推薦して下さったのも母校を想う心の深さの現れと、いつ

も感激していた。

夫君亡き後、お子様方を育てながら時には二つも三つも仕事を持たれていたと伺った。察するに超多忙な毎日だったろうに、会にはいつも馳せ参じて下さり、明るく人と接し、苦勞をお顔に出すこともなかった。

経専生時代、森本厚吉校長は「やるならいっそ徹底的に、失敗してもトライ・アゲイン」が口癖でいらした。授業中の雑談では、人生もいろいろ語って下さった。厚吉先生のお人柄に胸を打たれたが、湊会長からも同じ情熱と不屈の姿を見るのだ。

きつとそれは「経専魂」の一つで、湊会長はそれをしっかりと身につけた卒業生なのだ。

湊会長の印象を言葉にすれば、「情熱」「不屈」「和合」であろうか。小学校から短大まで、学校を越えて同窓会を構成している学園は数少ない。この貴重な特質を大切にしていきたい。

いつの時代でも、情熱とファイトは物事の持続、成功の源。これからも湊会長の口癖であった「和」をもって同窓会の活性化に努めることが長い長い間、会に尽くされた故会長への報恩

だと思っている。

湊くに先生！いろいろな学ばせて下さって、ありがとうございます。ありがとうございました。

副会長 黒澤敦子 (旧・小島)

湊会長は「千の風になって」

「この子達は私の初めての教え子なんです！」と湊先生は折にふれ嬉しそうに私達を紹介されました。その都度、既に老境入りの教え子は、「幸せ」を感じながら過ごしてまいりました。

昭和十五年四月、経専高女の新入生と、はやはやの体育教師として赴任されたばかりの五月先生。厳しいけれどテキパキとした行動と、まれに見る統率力を発揮されて、たちまち皆のあこがれの的となりました。

私は苗字が珍しかったせいかすぐに名前を覚えられ、何かと雑用を仰せつかるのが嬉しく、クラスメートから羨ましがられておりました。さらに幸運にも

私は二年、四年と先生をクラス担任として、叱られたり、泣いたり、笑ったりの充実した学生生活を送らせていただきました。昭和十八年、戦時色が次第に濃くなってきた頃のある日、思

いがけない情報が流れ、クラス全員が愕然と顔を見合わせました。「大月先生が結婚なさって学校を辞められるそうよ！」「ええっ！」

間もなく海軍砲術学校の教官、湊要三氏に嫁がれる日が迫り、有志による歓送会が催されました。おめでたい席ですのに、お祝いの言葉どころか、別れを惜しむ全員がただただ号泣するばかり…でした。

でも、これからは先生らしく、「千の風になって」、あの歌のように広い大空から私達をずっとフォローして下さいことでしょうか。

高女20 新倉邦子 (旧・見坊)

天性の教師

短大33 7期生有志 湊くに先生、そちらでの毎日、いかがでしょうか。

先生の旅立ちを伺いまして、私たちは、同窓の大先輩である湊くに先生に、短大での二年間、体育実技を教えていただいた半世紀前のことを、思い起こしております。

旧校舎の講堂兼体育館は、百人余りの学生でいっぱいとなり

ましたが、よく響く、独特の大きなお声でてきぱきと指示していらつしやいました。また、校庭でのダンスや球技の時間は、瞬く間に過ぎてしまったような記憶がございます。それは、教室での講義や、実習室、実験室で過ごした時間とは異なったものでございました。

多数の学生を指導された先生は、体育の教師として、天性のものをお持ちだったのではないのでしょうか。

卒業後、同窓会のお手伝いをさせて頂いた折にも、いつも深淵としていらつしやる先生にお会いすることは、一つの喜びでございました。同窓会の幹事会、総会等の時には、長引く会合の中たるみを察せられ、柔軟体操など体を動かせるよう、ご指導くださいました。旅行の車中でも同様でございました。

湊先生には、得がたい存在として、同窓会長を長く勤めていただきました。ありがとうございます。

先生の母校への尽きぬ愛情をもつて、同窓会発展のために情熱を傾けられた歳月を、私たちは心に留めながら、ご冥福をお祈り申し上げます。(文責 森孝子(旧・佐藤))

母校に戻ってみると

こんにちは。私は医技〇〇年卒業の高嶋(旧姓柿本)眞理です。なぜ卒業年度をはっきり書かないかと申せば、現在縁があり短期大学臨床検査学科で働かせて頂いているために、この「泉」を学生・卒業生が目にするからです。別に年齢を詐称している訳ではありませんが……。

私は、高校・医技と六年間お世話になりました。いざ自分が医技・短大臨床で働いてみると、先生方は本当に細かなところまで学生を指導していらっしゃると思います。それが国家試験の高い合格率、そして就職率一〇〇%に結びついているのだと思います。学生の時はレポート提出一つとってみても、不平しか言わなかった自分自身が恥ずかしいかぎりです。私の現在があるのもこのようなご指導のお陰と感謝しております。

そして私自身も現在、学生指導に結びつくようにと働きのながら、放送大学、大学病院の検査室などと勉強する機会を与えて頂いております。本当にこれもまた母校である職場に感謝の気持ちでいっぱいです。

観劇会

平成21年10月4日(日)

来年度から学校名が新渡戸文化短期大学に変更になる予定です。日本で最初に出来た臨床検査技師養成校の「東京文化」と言うネームブランドから新たな一歩を踏み出すこととなります。偉大なる先輩達が作ってきたくださった伝統を後輩のためにも、守り続けていかなければならぬ

と思っています。私の大好きなこの学園のためにも3日精神を發揮して少しでもお役に立てればと考えておりますので、同窓生の皆様方、これからもご指導よろしくお願ひ致します。

医技 高嶋眞理
(旧・柿本)



演出の 石井ふく子さん

総会で講演をお願いした石井ふく子さんは、本校の卒業生で、湊くに前会長の後輩。TBSのプロデューサーとして、「東芝日曜劇場」を手がけ、「女と味噌汁」、「肝っ玉かあさん」などホームドラマを担当。制作本数は三千本を超えています。

同窓会では、これまでに石井ふく子さんの演出の「空のかあさま」「初蕾」「京紅ものがたり」「おんな太閤記」「おしん」などを観劇会に取り上げました。母校でも何回か講演をお願いし、忙しい日程を調整して、後輩を励ますようなお話をしてくださりました。

平成21年10月4日(日)-13日(火)



MITSUKOSHI 三越劇場

短期大学の状況

学園内のコラボレーション進む

大学としての役割を果たすために

生活学科

学園の各校の教育に本学教員・学生が協力するコラボレーション企画が進んできました。また学生による地域へのボランティア活動も、例年の中野スマイル福祉まつりをはじめ多くの実績をあげています。

食物栄養専攻卒業研究ゼミナール(食品学)の学生が東京文化小学校生と一緒に、図書館裏にある「あんず」を収穫して、無添加の自家製あんずジャムを作りました。小学校の給食で食べていただきました。

新しく始められた東京文化幼稚園の預かり保育に、専攻科児童生活専攻の学生が交代でお手伝いを始めました。すでに幼稚園教諭免許を取得している学生ですが、インターンシップとして経験を積むいい機会となっています。

東京文化中学・高等学校のライフデザインの授業として「食育講座」を食物栄養専攻の教員



幼稚園の預かり保育にて

が担当しました。また、中一から高三までの家庭科の授業で「介護体験」を取り入れ、生活福祉専攻の教員が担当します。

児童生活専攻・専攻科児童生活専攻(幼稚園教諭・保育士養成)は二〇年度に一〇人の定員増をしましたが、二二年度よりさらに一〇人の増員を申請しています。ご支援をよろしく願います。

臨床検査学科

三年前に短期大学となり、今年三月に短期大学として初めて卒業生を送り出しました。



小学生と一緒にあんずを収穫

三月末に第五五回臨床検査技師国家試験合格発表があり、本学は九四・五%(全国平均七一・八%)の合格率でした。就職状況は例年になく早く内定をいただき、四月末には一〇〇%に達しました。

主な就職先: 東京大学医学部附属病院、防衛医科大学校病院、東京慈恵会医科大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、昭和大学病院、東京女子医科大学附属成人医学センター、東海大学医学部付属病院、日本大学医学部附属板橋病院、茨城県立中央病院、聖路加国際病院、亀田総合病院、武田薬品工業(株) 主な三年編入先: 東北大学、群馬大学、麻布大学

“同窓生の皆様、お知り合いをご紹介ください。”

学生募集要項 (2010年4月入学生) ※2学科とも選考方法、基準、手続き等が入学試験によって異なります。

生活学科

募集人員/生活学科(共学)

◆食物栄養専攻 (2年)80名 <栄養士資格>

◆児童生活専攻 (2年)40名増員

申請中

<幼稚園教諭二種資格>

専攻科児童生活専攻(1年)

<保育士資格>

入試区分	出願期間	試験日時・会場	合格発表
指定校・公募推薦1期	2009.10.14~10.21	2009.10.24 本母校舎	2009.10.24 本人宛発送
指定校・公募推薦2期	2009.11.4~11.11	2009.11.14 本母校舎	2009.11.14 本人宛発送
指定校・公募推薦3期	2009.12.2~12.9	2009.12.12 本母校舎	2009.12.12 本人宛発送
一般入試1期	2010.1.20~1.29	2010.2.2 本母校舎	2010.2.2 本人宛発送
一般入試2期	2010.2.17~2.26	2010.3.2 本母校舎	2010.3.2 本人宛発送
特別入試	社会人・優待入学・帰国生徒・留学生を対象とする入試です。出願期間・試験日時・合格発表は、上記、推薦入試・一般入試と同日程になります。		
A O 入試	エントリー受付期間: 2009.6.4~9.25、以降2010.3.12まで随時実施		
自己推薦入試	出願期間: 1回目2009.12.2~12.9 2回目以降2009.12.10~2010.3.23まで随時実施		

臨床検査学科

募集人員/臨床検査学科(共学)

◆臨床検査学科 (3年)64名 <臨床検査技師受験資格>

入試区分	出願期間	試験日時・会場	合格発表
指定校1期・公募A推薦	2009.10.19~10.31	2009.11.5 臨検校舎	2009.11.6 臨検校舎
指定校2期・公募B推薦1期	2009.11.16~11.30	2009.12.3 臨検校舎	2009.12.4 臨検校舎
指定校3期・公募B推薦2期	2009.12.25~2010.1.18	2010.1.21 臨検校舎	2010.1.22 臨検校舎
一般入試1期	2010.1.19~2.1	2010.2.4 臨検校舎	2010.2.4 臨検校舎
一般入試2期	2010.2.9~2.22	2010.2.25 臨検校舎	2010.2.25 臨検校舎
一般入試3期	2010.3.4~3.15	2010.3.18 臨検校舎	2010.3.18 臨検校舎

中学高等学校

「発信力」で輝く私へ

校長 長本 裕子

「リサーチ&プレゼンテーションで発信力を伸ばします」。二〇〇九年度、中高はこのような目標を掲げてスタートしました。

国語科の意見発表。数学科のオープンエンドレポート。英語科のレシテーションやShow&Tell(中学)、PRE Competition(高一・高二)。社会科の世界史小論文集作り(高一)、世界史・日本史歴史新聞作り及び掲示発表(高二)、模擬裁判(中三)。理科の科学者調べ(中一)、自由研究(中二)、地球環境問題研究(中三)、それぞれクラスで発表。さらに進路開発部のキャリアデザイン・トライアル(高二)は、二日間大学生生活を体験し、報告書を作成、新渡戸祭で展示します。このように各教科で「調べ、まとめ、何らかの形で発表する」という取り組みをしています。

こうした取り組みの成果は、たとえば、高二の大和成美さんが七月三十一日〜八月二日にかけて三重県尾鷲市で行われた、全国高等学校総合文化祭弁論部

門に東京都代表として出場ということに表れました。それは、文化部のインターハイへ賭ける高校生として、七月二十日付けの朝日新聞朝刊「東京(西部地域)のページに「はばたけ!09夏『救える命』訴えて」と大きく紹介されました。

このような発信力は、高校卒業後、大学でも社会人となってからでも、必ず役立つ力だと確信しています。まさにこれこそ「3日精神の実践」です。創立者森本厚吉先生が目指された「人前で自分の意見を述べられる女性」「男性と同じように1+1=2の力を発揮し、社会を担う女性」へと一歩一歩近づいていることを実感しております。

二〇一〇年四月一日より学校名が「新渡戸文化中学校」「新渡戸文化高等学校」となります。卒業生の皆様には、制服も変わり、学校名まで変わったら母校とは思えなくなると、憂えておられる方もいらっしゃるかと思います。しかし、『国家の品格』(藤原正彦著)や「新渡戸

塾」の開塾など、新渡戸先生が再評価されていることの背景には、日本人の倫理感や日本的な情緒が薄れてきていることへの危機感があるからでしょう。

このように、すでに中高では五年前から取り組んでおりますが、新渡戸先生の著書から引用して作成した『夢に向かって』を心の拠り所として、「弱い立場の人に対する思いやりの心」を育て、社会に貢献する志を持つ女性を育てることは大変大きな使命だと認識しております。

国際社会で通用する人間になるには、多くの課題を乗り越えていかなければなりません。その第一歩として、新渡戸精神を学び、日本の歴史や文化を理解し、すべての基礎となる学力を備え、発信力を身につけることから始めたいと考えております。



※中学校、高等学校では二〇一〇年度入試日程及び試験内容が一部変更になりました。

《2010年度 入 試 日 程》

【中学校】	
2月1日(月)	1回AM: 2科目・面接、又は4科目・面接
2月1日(月)	1回PM: 2科目・面接
2月3日(水)	2回AM: 2科目・面接、又は4科目・面接
2月5日(金)	3回AM: 2科目・面接、又は4科目・面接
【高等学校】	
1月22日(金)	A推薦・B推薦: 作文・面接 プレゼンテーション推薦: プレゼンテーション・面接
2月10日(水)	一般: 3科目(国・数・英)

《 イベント 日 程 》

【中学校】	
学校説明会	
<朝の説明会>	10:30~11:30
10月5日(月)・10月7日(水)・10月9日(金)	
<午後の説明会>	14:00~15:00
10月24日(土)・11月28日(土)・1月9日(土)	
<夜の説明会>	19:00~20:00 於: なかのサンプラザ
10月2日(金)	
学 習 会	9月26日(土)・10月17日(土)・11月21日(土)
(10:00~13:30)	(6年生対象・要予約)(スクールランチあり)
入試体験会	1月7日(水)
(10:00~12:30)	(6年生対象・要予約)
クリスマスイベント	12月12日(土)
(10:00~12:45)	(小学生対象・要予約)(クリスマスランチあり)
【高等学校】	
学校説明会	15:00~16:00
10月24日(土)・11月28日(土)・12月5日(土)・1月9日(土)	

公開授業	11月29日(日) 8:40~14:10
新渡戸祭	11月2日(月)・3日(祝・火)
(10:00~15:30)	両日共に個別相談会実施
	(11:00~15:00)

【学校見学】 予約不要
月~土(祝日を除く)
9:00~17:00

幼稚園 新渡戸文化幼稚園として

幼稚園園長 豆鞆美砂子

年長組の宿泊保育は今年で四〇回目を迎えました。

昨年からは新渡戸文化学園浅間高原寮に代えて、軽井沢町にある「恵みシヤレー」をお借りしての宿泊保育となりましたが、緑の木々に囲まれた中でカード探しやキャンプファイヤーなど高原ならではの楽しい二日間をすごしました。家族と離れ、自然の恵みを感じながら、お友達と寝食を共にし、協力して生活をする事、自分で考えることなど年長組にとり貴重な体験の一つです。

平成二十二年四月から新渡戸文化幼稚園と名称を変更し、翌



おやつ風景 (年少組)

二十三年には杉並区和田に現在ある幼稚園を中野本校に移転、新園舎が建てられることになりました。移転により、幼稚園から短期大学まで学園全体で新渡戸稲造先生の「こころの教育」をさらに良いかたちで連携して実践していくためです。

幼稚園は、新しい幼稚園建設に伴い、この年長組宿泊保育をはじめ、東京文化幼稚園の特徴のある教育を継続しながら、新たな教育施設としての取り組みを始めています。

幼稚園創立から約六十年の歳月が流れ、その時代とともに家族のライフスタイルも変化してきました。以前は、家庭で育児をし、幼稚園に通わせるという家庭が大半を占めていましたが、年々、子育てをしながら仕事をもち、しっかりとキャリアも積み第一線で活躍されている保護者の家庭も年々増えてきました。子どもの生活の場としての保育施設だけでなく、幼稚園ならではの教育もあわせて受けさせたことの考えからです。

新しい幼稚園では、中心となる子どもたちが生き生きと過ごせるような温かな環境づくりと教育をしていきます。また試みとして行っている「預かり保育」も充実していく予定です。

入園募集要項

【幼稚園】

《公開保育》

10月5日(月) 午前9時30分～11時30分

10月7日(水) 午前9時30分～11時30分

当日、都合の悪い方は幼稚園にお問い合わせください。

《入園説明会》

10月14日(水) 午後2時～3時(説明会)

幼稚園の保育方針や入園テストについて詳しく説明します。

《入園審査》

11月1日(日)

《問い合わせ》東京文化幼稚園 TEL03-3381-1183

日々の園生活の様子を毎日ホームページで紹介しています。どうぞご覧ください。

小学校

いよいよ 二クラス化が実現!

小学校校長 熊谷 勝仁

東京文化小学校は、「大きな夢を育てる、小さな学校」を

かけ、少人数だからこそできる教育の実現を目標に日々子ども達と共に歩んでまいりました。

昨今の少子化の中で二〇名〇名〇名というクラスが公立校でも多数を占めるようになり、クラス単位で四〇名では「少人数教育」という言葉を使うことがは

ばかられるようになってきました。そのため、低学年において完全「複数担任制」を実現したり、クラスを二つに分けた授業を取り入れたり、縦割り活動を強化したりなど、学校全体の少人数の良さを生かすための努力を続けてまいりました。さらにきめ細かい指導や、一人一人を大切にす親身になった指導をより一層進めるためには、一クラスの定員を減らすことが急務であると考えておりました。

その願いが、いよいよ平成二十二年四月に実現することになりました。クラス定員を三〇名とし、一学年二クラス制にすることが認められたのです。それに伴い、学園9号館と6号館の一部への改築・移転も決まりました。今の和田校舎では、東京都の認可が下りないからです。平成数年後には、校舎を増築する予定もあります。

和田校舎を巣立った卒業生の皆さんには校舎が変わることに對する残念な思いがあるかもしれませんが、小学校のさらなる発展のためとご理解いただけたいと存じます。十二月には和田校舎さよならセレモニーも企画しております。ぜひお越しください。

また、移転にあわせて、学園の他の学校と同様に平成二十二年四月から新渡戸文化小学校の校名に変更いたします。

二クラス化の実現により、従来の小さな学校の良さは最大限に残し、それにプラスして、今まで一クラスではできなかった教育活動をどんどん取り入れ、さらに楽しい学校を実現しようと思っております。

今後ともご助言・ご協力をお願いいたします。

児童募集要項

【小学校】

《募集人数》

男女合わせて約60名

(本学園幼稚園からの内部推薦者・帰国子女枠を含む)

《試験日》

第1回 11月3日(火) 午前8時より受付開始

第2回 11月11日(水) 午前8時より受付開始

《願書配布》

9月1日(火)～11月6日(金)

土・日曜・祝日・秋休み(10月1日・2日)、10月16日(創立記念日)を除く。

《出願期間》

第1回 10月9日(金)～10月30日(金) 午前9時～午後3時

第2回 10月9日(金)～10月30日(金) 午前9時～午後3時

11月5日(木)～11月9日(月) 午前9時～午後3時

土・日曜・祝日および、創立記念日(10月16日)を除く。

2009 新 渡 戸 祭

皆さまのご来校をお待ちしています

今年は、小学校と幼稚園の日程が早まります

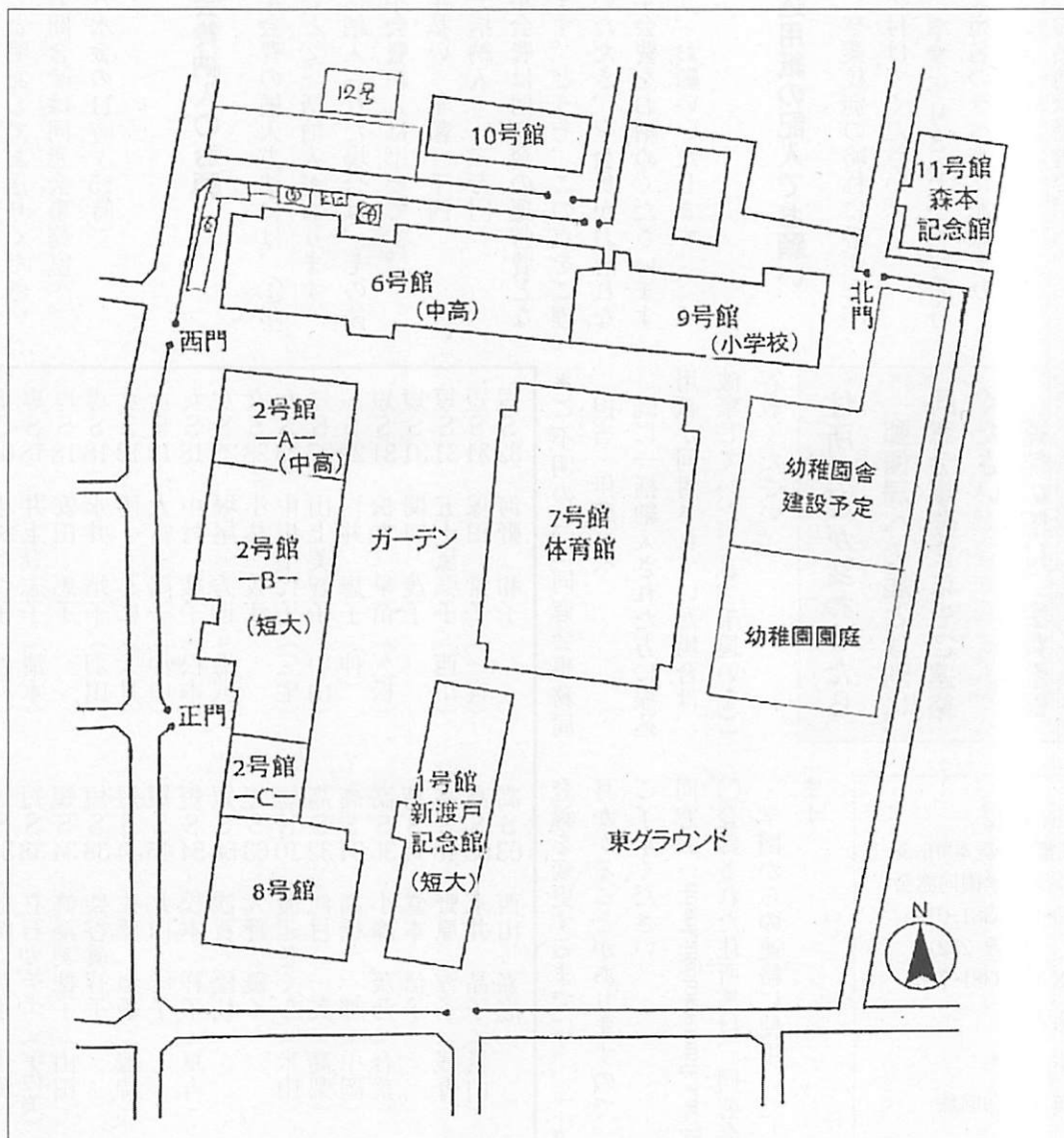


10月25日(日)	和田校舎	東京文化小学校・東京文化幼稚園
11月2日(月)	本校舎・臨検校舎	東京文化短期大学生生活学科・臨床検査学科
3日(祝)	本校舎	東京文化高等学校・東京文化中学校

新型インフルエンザの影響により内容を変更することがあります。

校舎移転の予定

本校舎



平成22年4月 小学校が9号館と6号館の一部に移り、中高は6号館と2号館の一部を使います。

平成23年4月 幼稚園が体育館東に新設する園舎に移ります。

一般会計収支(平成20年度)

(単位:円)

収入	会費収入他	9,393,607
	前年度より繰越	1,627,481
	収入計	11,021,088
支出	諸費用	9,806,473
	次年度へ繰越	1,214,615
	支出計	11,021,088

資産残高(平成21年3月31日)

(単位:円)

一般会計	現金・預金・有価証券	87,010,907
事業部会計	現金・預金	20,472,985
奨学会会計	現金・預金・貸付金	2,002,053
旅行部会計	現金・預金	721,047
会報部会計	現金・預金	1,057,851
文化部会計	現金・預金	1,789,230

*会計報告をご覧になりたい方は、同窓会事務局に幹事会資料をご請求ください。

平成二十一年度
同窓会の活動と予定

- 5月11日(月) 幹事会
 - 5月15日(金) 湊会長葬儀お別れ会に参列
 - 6月7日(日) 総会(学園にて)
 - 10月4日(日) 観劇会「母の贈物」
 - 三越劇場を貸切
 - 11月2日(月)・3日(火・祝) 新渡戸祭に参加 作品展示、バザー、喫茶など
 - 4月20日(月)、6月22日(月)、9月4日(金)、12月4日(金)、2月15日(月) 理事会(計5回)
 - その他
- 総会は一年おきで、次は23年5月頃に開催予定。部会は、来年度に各部で開催予定。
国内旅行と海外旅行は、今年度の計画はありません。

新渡戸祭にご協力を

今年の新渡戸祭は幼小が10月25日(日)に開催されますが、同窓会は中高短大の日程の11月2(月)・3日(火・祝)に参加します。母校にぜひおいでください。
同窓会ではバザー、同窓生による手作り作品の展示即売を行います。バザーのために、日用品、衣料品、食品などの献品をお願いいたします。

年会費納入のお願い

年会費の納入方法には、①年払いと②一括納入があります。一括納入された場合は、その後の年会費納入は不要です。
①年払い 年額一千元
②一括納入 二万円
年会費は同窓会の運営費となります。どうぞ、この点をご理解いただき、全会員がお忘れなく年会費をお納めくださいますよう、お願いいたします。

払込用紙の記入でお願い

- ア 卒業校別の略称に必ず〇印を付けてください。
- イ 卒業年月と会員登録番号(宛名のラベルに記載あり)をお忘れなく。
- ウ お名前は楷書で。毎年、記入漏れが多く、調査に苦勞しております。正確にご記入ください。

謹んでおくやみ申し上げます。(敬称略)

卒業年	物故者氏名(旧姓)	長島 信子(奥村)
専S06	小林はつ子(竹村)	益崎 英子(馬淵)
専S18	井上登志子(清水)	立石カチエ(宇佐美)
専S18	安田 恵子	眞鍋美穂子(山田)
専S18	永井 靖子(羽田)	柴谷眞智子
女S13	湊 くに(大月)	佐藤 恒子(銀持)
女S13	大宮 陽子(沖中)	井口 洋子
女S18	中村 綾子(松本)	松本 祥子(夏吉)
女S23	堀尾 秀世(梅沢)	浅賀 優枝
女S23	小林 牧江	大野 優子
短S23	中川千代子(三宅)	渡辺さくら(米山)
短S27	山上美智子(中山)	河村 一美(高梨)
短S29	白井 恵子(仲)	高橋 都(中岡)
短S31	松本 早苗(久松)	小峰 茂乃(合葉)
短S31	関口 茂子	堂本 信子
短S31	五十嵐弘子(西川)	野原 淳子(浅野)
短S31	塚田 常子(一宮)	永井 晶子(景山)
短S32	河野 和子	西山 嘉恵

*ご不明の点は同窓会事務局(担当・伊藤)へ
既に一括納入された方に振込用紙が同封されていた場合は、破棄していただき、手違いを内容赦ください。

住所などが変わったら

郵便局への届とは別に、同窓会事務局にもご連絡ください。
連絡の際は、会員登録番号をお忘れなく。

○連絡方法は、電話、ファックス、Eメールでも受け付けます。

発行所 〒164-0012
東京都中野区本町6-38-1
東京文化学園同窓会
電話 03-3381-0196
(内線 232)
FAX 03-3381-7866

発行人・編集人 森本 晴生

印刷所 山藤三陽印刷(株)